

2015 年度 日経就職ナビ 学生モニター調査結果 (2013 年 12 月発行)

株式会社ディスコ  
キャリアリサーチ

2015 年度  
Vol.1

## 11 月後半 (プレ期) の就職意識調査

12 月広報開始 3 年目となる 2015 年度就職戦線。今期の学生の意識や準備の状況はどうだろうか。日経就職ナビ・学生モニターを対象に、就職活動本番を間近に控えた 11 月後半時点での就職意識および就職活動の状況などを尋ねた。

### 1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」34.2%、「楽になる」65.8%
- 楽になると見る根拠に「アベノミクス」「東京オリンピック」を挙げる声が多数

### 2. 11 月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」19.9%。決定状況は前年度よりやや早い
- 志望業界 1 位は「水産・食品」、2 位に「銀行」

### 3. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」13.7%、「大手企業」28.7%。昨年と傾向は変わらず

### 4. 就職活動準備に関して

- 11 月までに就活準備を始めた学生は 76.7%。情報の仕入れ先は「就職サイト」96.6%

### 5. インターシップの参加状況

- モニター全体の 56.9%が参加経験あり。前年より 4.4 ポイント増加

### 6. インターシップの応募理由と、志望業界決定状況

- 応募理由は「職業体験のため」74.8%、「企業研究・業界研究のため」65.8%

### 7. 大学の就職ガイダンス参加状況

- ガイダンス参加経験者は 85.2%。平均回数は 4.8 回

### 8. スマートフォンの保有状況

- 保有率は 91.7%。保有者のうち「就職活動用に購入」は 20.6%

### 9. 就職活動に臨む心境

- 「楽しみたい」74.1%、「早く終えたい」62.6%、「内定取れる自信ある」46.8%

#### 《調査概要》

調査対象 : 2015 年 3 月卒業予定の全国の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)  
 回答数 : 1,490 人 (文系男子 433 人、文系女子 479 人、理系男子 350 人、理系女子 228 人)  
 調査方法 : インターネット調査法  
 調査期間 : 2013 年 11 月 15 日~22 日  
 サンプルング : 日経就職ナビ 2015 就職活動モニター

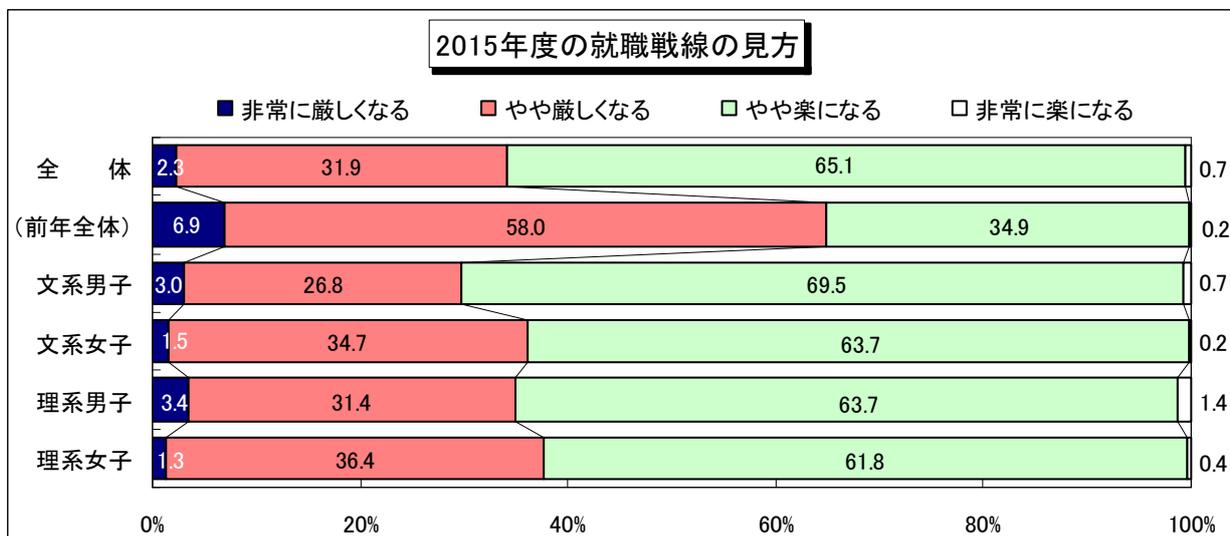
◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 就職戦線の見方

今年の就活生は、自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのだろうか。その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」2.3%、「やや厳しくなる」31.9%で、より厳しくなると見ている人は34.2%。前年同期調査では64.9%と6割を超えていたので、厳しいとの見方は急激に緩和されている。一方で、「やや楽になる」65.1%、「非常に楽になる」0.7%と、楽観派は65.8%に上った。調査時期が11月と、本格的な就職活動を経験していない段階での回答であることを加味しても、かなりインパクトのある数字と言える。

楽になると見ている学生の意見には、「アベノミクスによる景気回復」と「東京オリンピックへの期待」による採用枠拡大を根拠として挙げる声が多く、逆に厳しくなると見ている学生からは、「前年度の採用増加の揺り戻し」や「消費税引き上げによる景気後退」を警戒する声が見られた。TPPやグローバル化を学生が後ろ向きにとらえている点にも注目したい。



#### ■「厳しくなる」と見る理由

- 景気がよくなってきていると騒がれている中で、実際の私たちの生活は良い方向に進んでいると感じないし、消費税が高くなることでまた景気が悪くなるのではと思ったから。 <文系女子>
- インターンに参加するなど早期から就活を意識する学生が増えている。ライバルが強くなっているという意味でやや厳しくなると感じている。 <文系男子>
- グローバル人材の言葉のバズワード化が見られ、企業としても採用コンセプトの変更がなされる風潮があり、学生側としても採用基準が読みにくい。 <理系男子>
- アベノミクスによる好景気がメーカーに偏っている。昨年度の新卒採用の増加の揺り戻しが来るのではないかと。 <文系男子>

#### ■「楽になる」と見る理由

- アベノミクスや東京五輪など日本の景気が上向きの状態にあるとニュースや新聞を読んでいて感じるのだから(実感はないが…)、その影響から企業も学生を多く採用するのではないかと。 <文系男子>
- 来年度から就職活動の開始時期が遅くなることで、企業も今年は早めに動き、多く採用すると思うから。 <理系女子>
- アベノミクスの効果や、オリンピック開催による景気回復が期待できるから。そして TPP 交渉の進展により、運輸系や商社は採用人数が増加すると思われますが、食品関係への影響力を懸念しています。 <文系女子>
- アベノミクスなどの影響により、日本経済全体が景気回復してきており、企業も採用に積極的になりそうだという話を聞いた。また、理系のニーズも高くなってきているようなので、やや楽になるのではないかと。 <理系男子>
- 過去最高経常利益を出す企業が増えているから。女性の雇用を促進する企業が多いから。 <文系女子>

## 2. 11月後半時点での志望業界

11月の調査時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という学生が最も多く、61.1%と約6割。「明確に決まっている」学生は前年調査(18.7%)より微増の19.9%で、就職活動本番前でも2割弱は既に明確に決めていた。今年は、前年調査より約1週間早く調査を実施しており、そのことを考え合わせると、志望業界決定の時期はやや早まっていると言える。

志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「水産・食品」が24.8%で最も多く、僅差で「銀行」24.6%、「医薬品・医療関連・化粧品」18.7%と続く。文系は男女とも「銀行」が首位だが、理系は男子が「電子・電機」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。「水産・食品」は文理問わず女子の順位が高かった。

### 11月後半時点での志望業界の決定状況

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	19.9	18.7	19.9	14.0	28.9	18.9
なんとなく決まっている	61.1	63.2	59.4	61.6	56.6	70.6
決まっていない	18.9	18.0	20.8	24.4	14.6	10.5

### 11月後半時点での志望業界 (上位20業界)

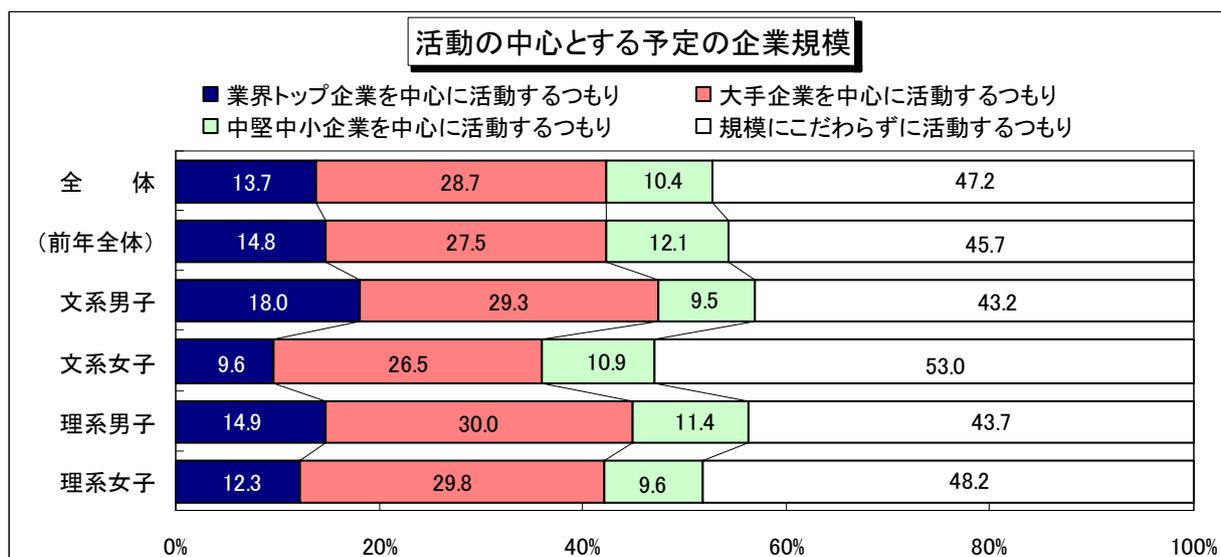
全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	水産・食品 ② 24.8	銀行 40.5	銀行 32.9	電子・電機 27.1	医薬品・医療関連・化粧品 47.1
2	銀行 ① 24.6	商社(総合) 24.2	水産・食品 29.3	素材・化学 22.4	水産・食品 46.1
3	医薬品・医療関連・化粧品 ④ 18.7	運輸・倉庫 23.6	マスコミ 27.9	エネルギー 22.4	素材・化学 31.9
4	マスコミ ⑤ 18.0	マスコミ 19.2	ホテル・旅行 23.8	情報・インターネットサービス 21.4	情報・インターネットサービス 17.2
5	商社(総合) ③ 16.2	エネルギー 17.2	商社(総合) 17.1	機械・プラントエンジニアリング 20.4	マスコミ 13.7
6	素材・化学 ⑥ 15.6	官公庁・団体 16.3	運輸・倉庫 16.6	自動車・輸送用機器 19.4	電子・電機 12.7
7	運輸・倉庫 ⑩ 15.0	調査・コンサルタント 15.5	医薬品・医療関連・化粧品 14.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 19.1	商社(総合) 12.3
8	エネルギー ⑦ 14.4	保険 15.5	官公庁・団体 13.8	水産・食品 18.1	商社(専門) 12.3
9	官公庁・団体 13.8	建設・住宅・不動産 14.6	保険 13.5	調査・コンサルタント 17.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.3
10	調査・コンサルタント ⑧ 13.2	水産・食品 13.4	商社(専門) 13.0	医薬品・医療関連・化粧品 17.4	精密機器・医療用機器 11.3
11	情報・インターネットサービス 13.2	信用金庫・労働金庫・信用組合 12.2	信用金庫・労働金庫・信用組合 12.7	精密機器・医療用機器 14.0	エネルギー 10.8
12	電子・電機 ⑧ 12.3	商社(専門) 12.0	印刷・パッケージ 12.2	官公庁・団体 13.0	官公庁・団体 10.8
13	建設・住宅・不動産 11.9	証券・投信・投資顧問 11.7	建設・住宅・不動産 11.0	建設・住宅・不動産 10.7	建設・住宅・不動産 10.8
14	商社(専門) 10.8	ホテル・旅行 10.5	教育 10.8	銀行 10.4	調査・コンサルタント 10.8
15	ホテル・旅行 10.8	情報・インターネットサービス 9.3	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 10.5	通信関連 10.4	農業・林業・鉱業 9.8
16	保険 10.3	教育 8.5	エンターテインメント 10.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 9.0	運輸・倉庫 8.8
17	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.2	素材・化学 8.2	百貨店 8.8	商社(総合) 8.7	通信関連 8.3
18	自動車・輸送用機器 9.5	自動車・輸送用機器 8.2	調査・コンサルタント 8.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 8.0	機械・プラントエンジニアリング 7.8
19	機械・プラントエンジニアリング 8.2	通信関連 8.2	その他サービス 8.6	マスコミ 7.7	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.4
20	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.9	医薬品・医療関連・化粧品 7.9	情報・インターネットサービス 8.0	運輸・倉庫 7.4	印刷・パッケージ 6.4
			素材・化学 8.0		

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

### 3. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業規模を尋ねたところ、「業界トップの企業を中心に活動するつもり」13.7%、「大手企業を中心に活動するつもり」28.7%と、いわゆる大手狙いの学生が 42.4%と約 4 割以上で、前年調査とほとんど変わらない結果となった。「規模にこだわらずに活動」が 47.2%と前年より微増しており、就職先選びの軸を企業規模に求めないケースも増えている可能性がある。

これを文理男女別に見ると、女子に「規模にこだわらずに活動」と答える割合が高く、男子は「業界トップ」「大手企業」の割合が女子に比べ高いなど、志向の差が見られる。



#### ■「業界トップ企業」を中心に活動する理由

○社会に出て働くからには業界・社会をリードする働きがしたいし、トップ企業なら自分の成長のための挑戦の場が幅広くありそうだから。 <文系男子>

○大手、中堅、ベンチャーのサマーインターンシップを通して、様々な対応がとてもしっかりしていたのが大手企業だったから。 <文系女子>

○福利厚生などの面で中小企業よりも有利であることが多いため。また、あえて志望したい中小企業が今のところないため。 <理系男子>

#### ■「大手企業」を中心に活動する理由

○終身雇用制も崩れてきているため、大手企業の人材教育を受け、しっかりとしたスキルを身に付けておきたいから。 <文系男子>

○女性は結婚、出産とさまざまなライフイベントがある中で、やりがいのある仕事でなければ就業継続できないと考える。そのため大手の企業で、社会で大きな仕事をしたいと考える。 <文系女子>

○研究にお金を掛けている企業が多く、研究職に就くとより大規模・自由な研究ができると感じるから。 <理系男子>

#### ■「中堅中小企業」を中心に活動する理由

○中小企業に就職したほうが、会社の事業全体を見渡しながら仕事ができそうだから。 <理系女子>

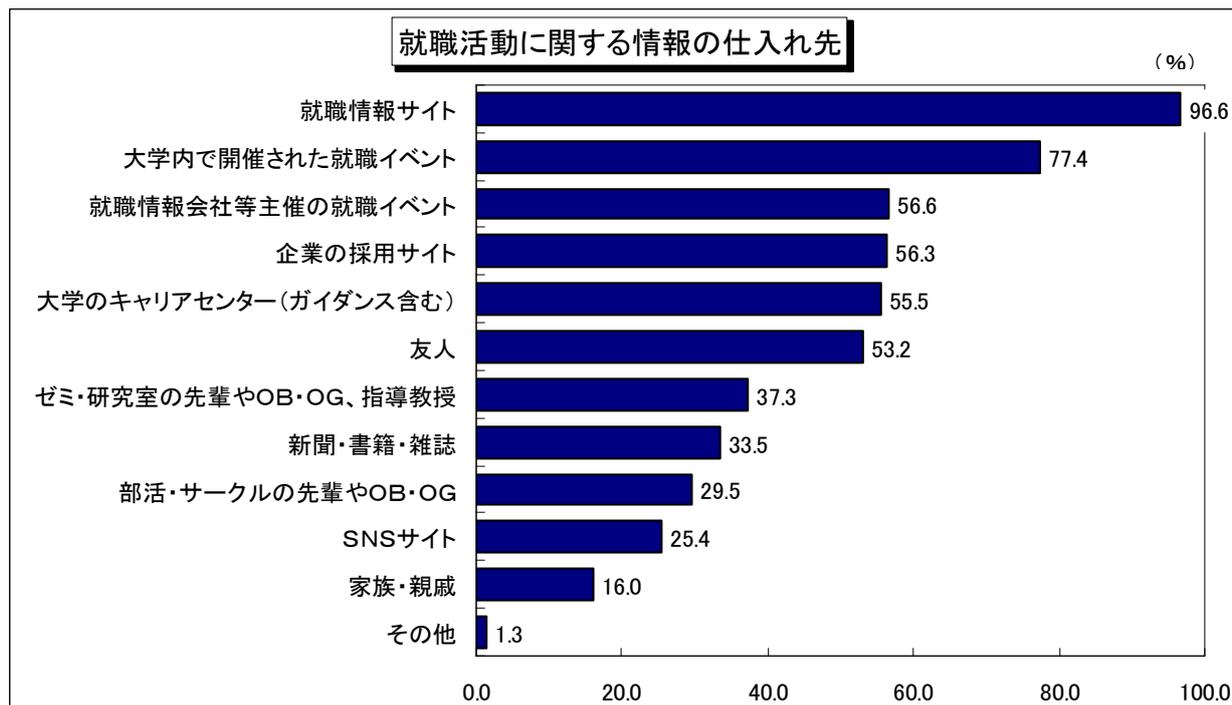
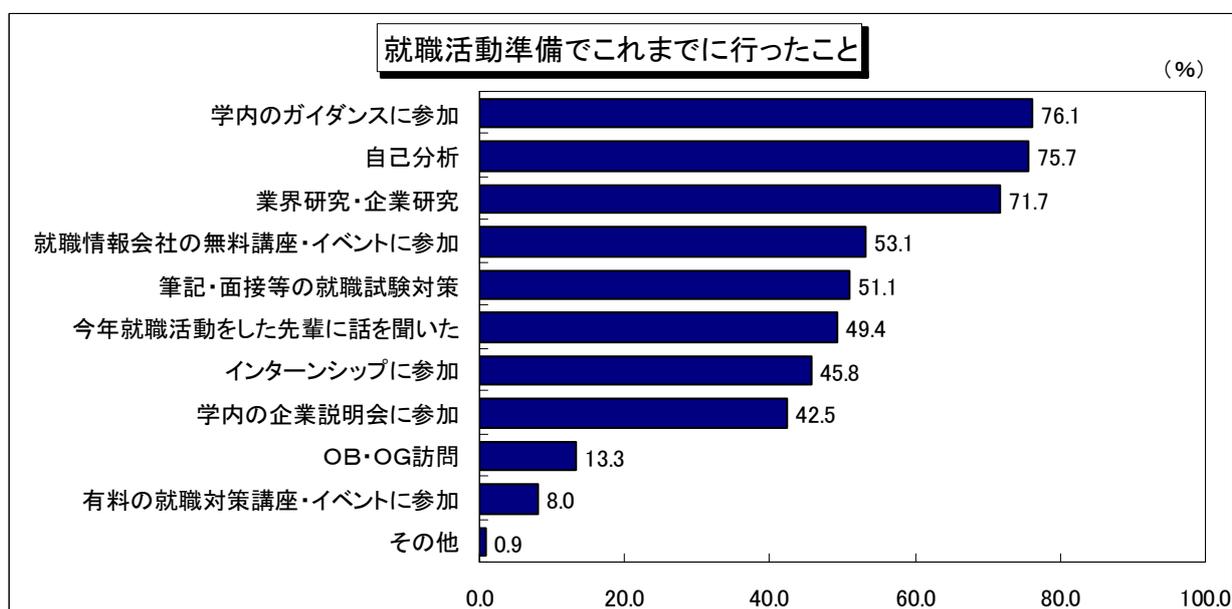
○企業サイクルを考え、今後伸びてくる可能性と、独自の強みを持っていることにひかれたから。 <理系男子>

○地元密着型の企業に入ってその地域に貢献していきたいと思っているので、大企業よりは地域を主戦場としているような企業で働きたいと思っている。 <文系男子>

#### 4. 就職活動準備に関して

11月時点で就職活動の準備を始めていたと回答した学生(全体の76.7%)に対し、準備として行った内容を尋ねた。「学内のガイダンスに参加」(76.1%)、「自己分析」(75.7%)の2項目がほぼ同じ割合で高く、「業界研究・企業研究」も71.7%と7割を超えている。

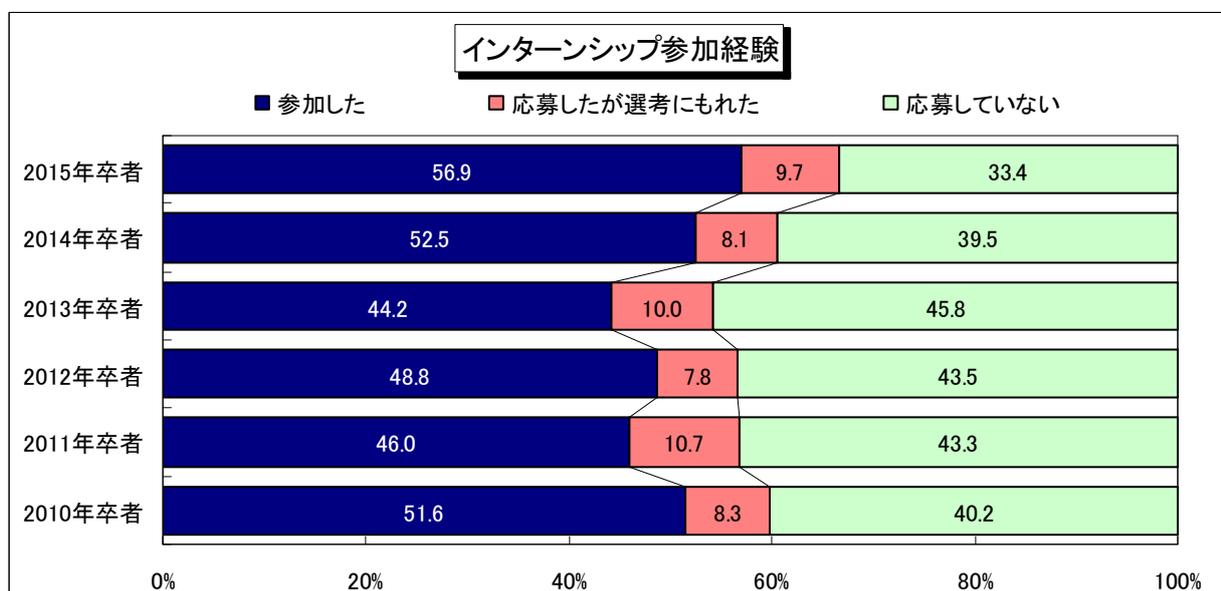
一方、就職活動に関する情報の仕入れ先で最も多いのは「就職情報サイト」で、96.6%と9割以上が回答した。調査時点では、どのサイトもグランドオープン前であったが、プレサイトも学生にとって大きな情報源であったことがよく分かる。続いて2位が「大学内で開催された就職イベント」(77.4%)、3位「就職情報会社等主催の就職イベント」(56.6%)と、イベントが上位に入り、WEBだけでなくリアルの場も活用し、幅広く情報収集を行っていたことがうかがえる。「企業の採用サイト」は56.3%で、採用広報開始前であっても半数以上の学生が閲覧していた。



### 5. インターンシップの参加状況

インターンシップへの関心は、前年の学生よりも一層高まっている。今期はモニター全体の66.5%がインターンシップへの応募経験をもち、実際に参加できた学生は56.9%と前年より4.4ポイント多い。調査の分母が、就職活動解禁前のプレ期に就職活動モニターに登録した意識の高い学生であることに注意する必要があるが、それを差し引いても、かなり多くの学生がインターンシップに関心を寄せていることは明らかだ。2011年3月に倫理憲章においてインターンシップのあり方が厳格化されてから3年目となるが、一旦減少したインターンシップ実施企業は再び増加に転じ、受け入れ態勢も円滑だったのだと思われる。

平均参加社数は、1-dayを含むショートプログラムで2.2社、倫理憲章の条件を満たす5日間以上のプログラムは1.5社と、ショートプログラムのほうが依然多い。しかし、5日間以上のインターンシップは年々増加傾向にある。



#### インターンシップ参加社数【1~4日間のインターンシップ】

	全体	(前年全体)	(前々年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
平均	2.2	2.4	1.8	2.3	2.2	2.1	2.2
1社	47.1	49.6	62.2	44.8	48.3	53.2	42.5
2社	25.1	22.7	19.9	26.7	24.4	22.3	26.4
3社	14.0	10.5	9.4	13.4	14.1	12.8	16.1
4社	6.1	6.2	2.9	4.7	6.8	4.3	9.2
5社	2.5	5.5	3.1	3.5	2.0	3.2	1.1
6社以上	5.2	5.5	2.4	7.0	4.4	4.3	4.6

#### インターンシップ参加社数【5日間以上のインターンシップ】

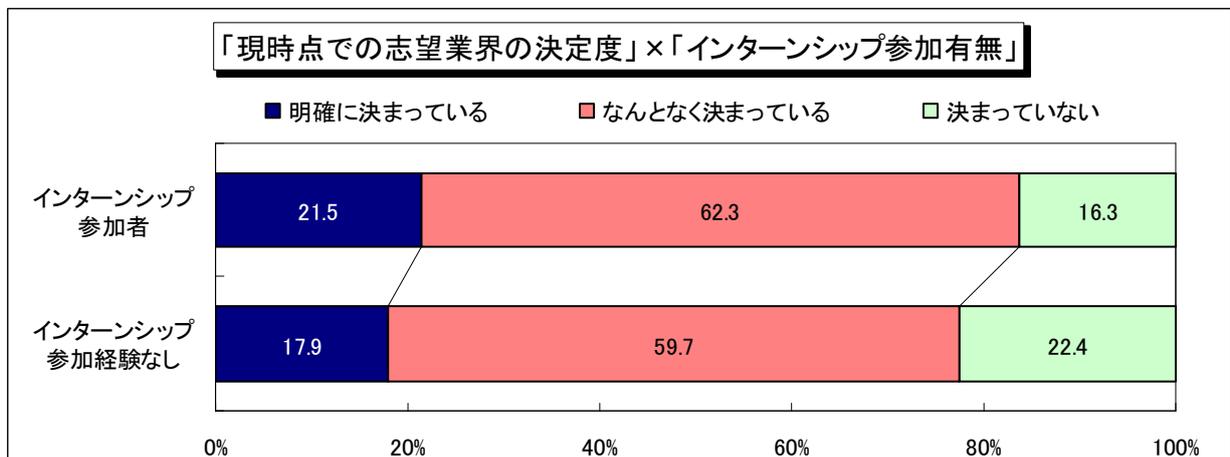
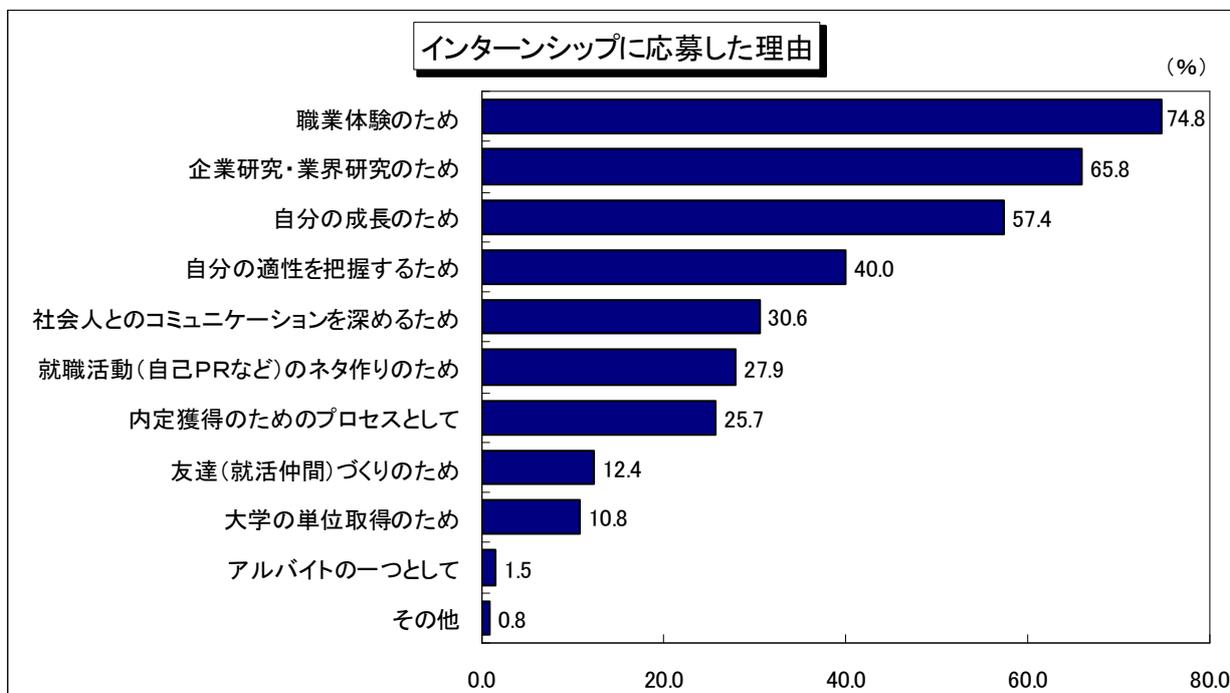
	全体	(前年全体)	(前々年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
平均	1.5	1.4	1.3	1.7	1.3	1.6	1.3
1社	67.3	73.6	78.6	54.4	76.2	66.4	75.3
2社	22.5	18.0	16.5	30.4	17.5	21.0	19.5
3社	5.9	5.2	2.2	8.2	5.3	5.9	2.6
4社	3.1	1.5	0.9	4.7	1.1	5.0	1.3
5社	0.9	1.0	1.3	1.8	0.0	0.8	1.3
6社以上	0.4	0.8	0.4	0.6	0.0	0.8	0.0

### 6. インターンシップの応募理由と、志望業界決定状況

インターンシップ応募者に対し、応募理由を複数回答で尋ねた。「職業体験のため」が 74.8%で最も多く、4 人に 3 人が選んだ。実施企業の多くは「採用に関係ない」ことを表明しており、学生側もそれを意識しているのだろう。一方で、「企業研究・業界研究のため」が 65.8%で 2 番目に多く、インターンシップが職業体験を通して職業観を涵養するという本来の目的だけでなく、業界研究・企業研究の格好の場としても機能していることを示唆している。

3 ページで確認した「志望業界の決定状況」を、インターンシップ参加者・非参加者に分けて検証してみると、インターンシップ参加者のほうがより早く業界を決める傾向があることが分かる。「志望業界が明確に決まっている」と回答した割合は、インターンシップ非参加者が 17.9%なのに対し応募経験者では 21.5%と 3.6 ポイント多い。逆に、「決まっていない」との回答は、インターンシップ参加者 16.3%、非参加者 22.4%と 6 ポイント以上の差がある。

先に見たように、志望業界決定の時期は全体的にやや早まったが、インターンシップ参加者がより早く業界を決めたことで、早期化が加速したとも言えそうだ。



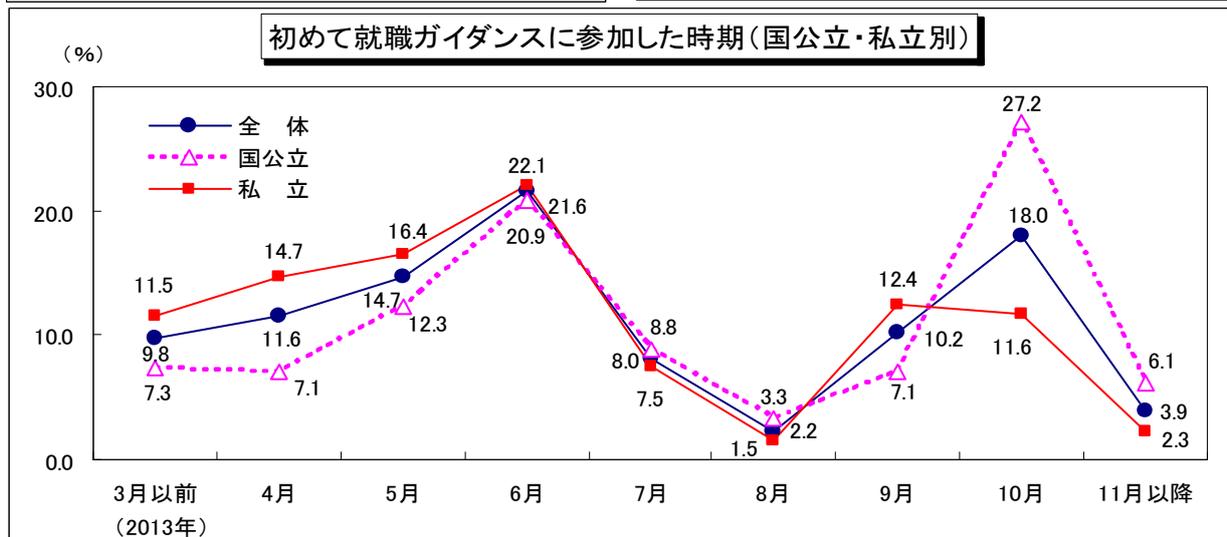
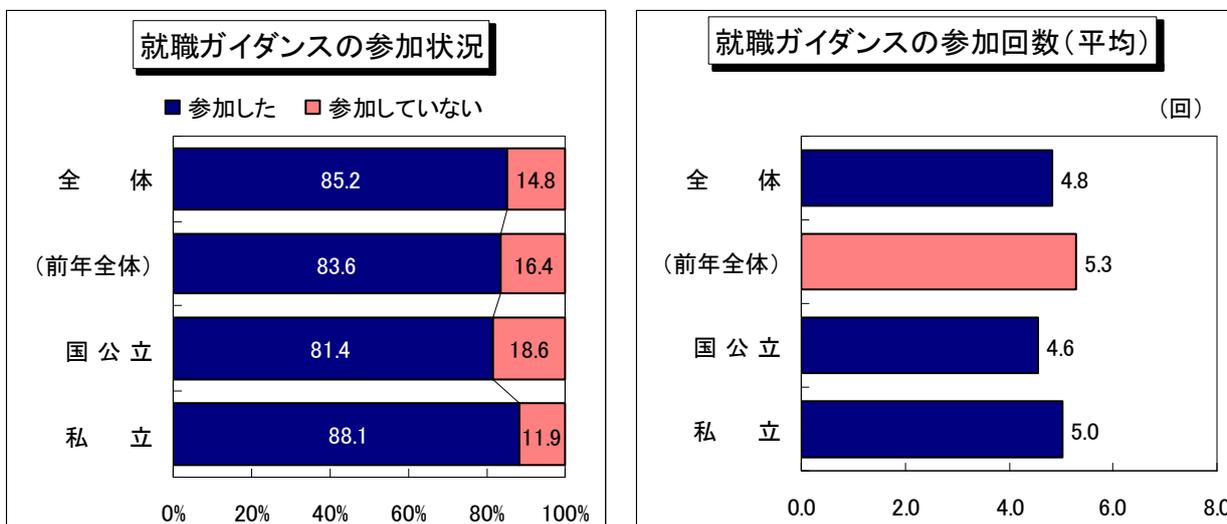
### 7. 大学の就職ガイダンス参加状況

11月の調査時点で、大学の就職ガイダンスに参加経験のある人は全体の85.2%で、前年調査(83.6%)を僅かに上回った。一方、平均参加回数は4.8回と、前年(5.3回)を下回っている。

このデータを国公立・私立別に見てみると、国公立の学生の参加率は81.4%と8割程度であるのに対し、私立では88.1%と6.7ポイントの差が見られる。私立大学は一般的に就職指導が手厚いことも影響しているのだろう。参加回数も国公立よりも私立のほうが多かった。

また、ガイダンス初回参加時期も国公立と私立とでやや差が見られ、私立大学の学生が早期から参加し始め6月に山を迎えるのに対し、国公立の学生は10月が大きな山となっている。先に見た平均参加回数や初回参加時期とも関係しているようだ。

キャリアセンター(就職支援部門)の利用状況を聞いたところ、全体の73.7%と4人に3人は利用経験があったが、やはり国公立の割合は62.0%と低く、私立は82.4%と8割を超えた。



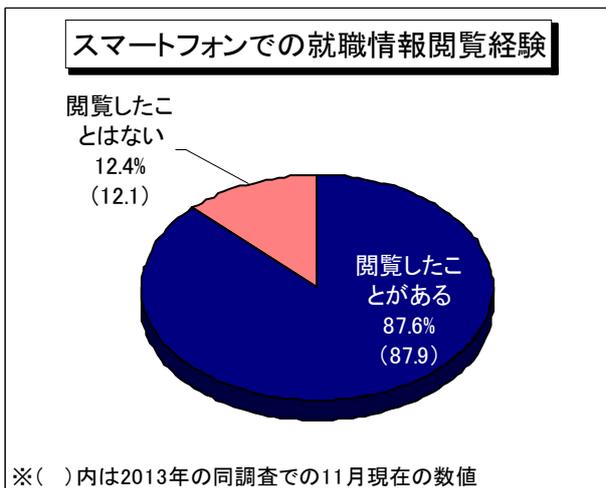
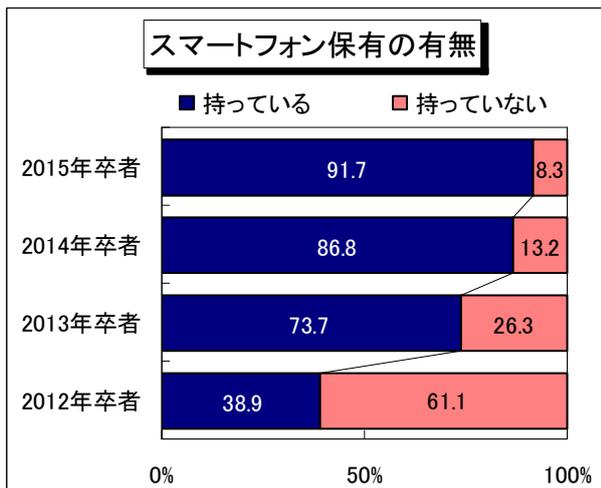
### 大学の就職課・キャリアセンターの利用状況(国公立・私立)

	全体	(前年全体)	国公立	私立
キャリアセンターに行ったことがある	73.7	74.1	62.0	82.4
キャリアセンターに行ったことはない	26.3	25.9	38.0	17.6

※「大学に就職支援部門がない」と回答した人を除いて算出

### 8. スマートフォンの保有状況

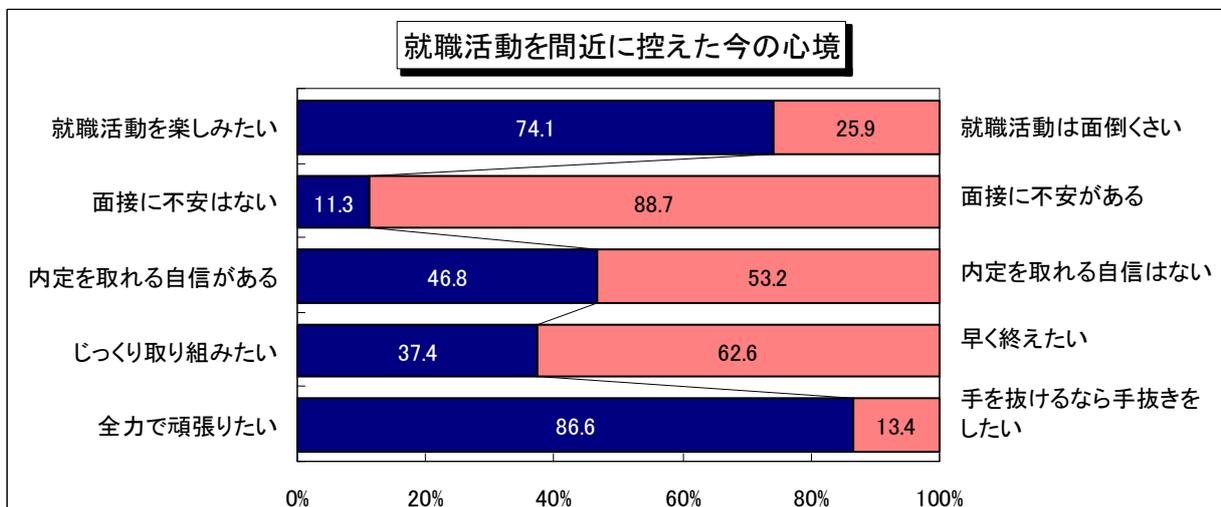
スマートフォンの保有率は前年調査よりもさらに伸び、91.7%と9割を超えた。保有者のうち「就職活動用に購入」と回答したのは20.6%と約2割にとどまった。前年調査では35.3%で、3人に1人は就職活動のために新規で購入していたが、今年はもともとから保有していた人が圧倒的多数を占めた。大学生にとってスマートフォンは生活に必須なアイテムとして定着しているようだ。就職活動での利用（就職情報閲覧経験）は、87.6%と前年とほぼ同率だった。



	就職活動用に購入	就職活動に関係なく購入
2015年卒者	20.6	79.4 (%)
2014年卒者	35.3	64.7

### 9. 就職活動に臨む心境

就職活動を間近に控えた11月後半の心境を、相反する2項目のどちらかを選ぶことで回答してもらった。就職活動への姿勢は、「楽しみたい」74.1%、「面倒くさい」25.9%と、前向きな学生が多数を占めた。88.7%と9割近くが「面接に不安がある」としながらも、内定取得については4割以上が「自信がある」と回答した。期間は、「じっくり」37.4%、「早く」62.6%と、短期決戦を望むほうが多い。「全力で頑張りたい」が86.6%と高いが、集中して取り組むことで少しでも早く就職先を決めたいという気持ちが垣間見える。



## ■就職活動に関して思うこと

- 合同説明会の予約開始の次の日にアクセスしたら志望業界のセミナーだけ全て満席になっていて、圧倒的に人気があることを知り、競争率の高さに驚愕している。 <理系女子>
- OB・OG 訪問などは、学生側はどこまで積極的になればよいのかわからない。あまり積極的すぎると凶々しく思われてしまうだろうし、消極的なのも良くないだろうし、適切な態度がわからない。 <文系男子>
- 筆記試験や面接、ES の書き方など、いろいろな講座で教わったり、先輩に聞いたりしているが、皆意見がバラバラでどのようにしていいかわからない。 <文系女子>
- 部活で時間をとれないので Skype とかで説明会やセミナーを聞けたらいいと思います。 <文系男子>
- 採用の対象学部や学科がはっきりしていないところもあり、応募してもチャンスがあるのかわからない。 <理系女子>
- 女子の総合職採用人数を企業ごとに知りたい。公表していない企業が多いため、情報収集に手間取ってしまう。 <文系女子>
- スマートフォンは所有していませんが、就職活動に備えてタブレットを購入しました。 <理系男子>
- その会社によって職種の名前が違って分かりにくい。また業界の中でどういう仕事の種類があるのか、仕事のイメージを持つことが難しい。 <理系女子>
- 良い企業の見分け方を知りたいです。インターンの選考でいいなと思っていた企業が、翌月くらいに業務停止命令受けたので。 <文系男子>
- 学部生のころは先輩が就職活動で辛そうにしているのを見て不安に思ったものですが、覚悟が座り、今は就職してやるぞといった心持ちです。いやだいやだといくら言っても結局働かねば飯は食えんので、吹っ切れしました。まっすぐ企業にぶつかっていかうと思います。 <理系男子>
- 「残席わずか！」という文句を聞くが、3 席残っているのか 100 席残っているのかわからない。人事部が就活生を多く釣るための煽り文句があるかどうかで、ブラック企業かどうかを判断している。 <文系男子>
- いつかは経験しなければいけない就活が目前にせまり、まだ信じられない。まわりが優秀に見え、自分に自信がもてない。でも企業のことを知るの楽しいので、働くことにも積極的になれるようになりたい。 <文系女子>
- 自分の大学は就活貴族だと信じたい。 <文系男子>
- つい先日まで就活のことを考えると気が滅入っていたのですが、恋愛と似ていると言われて、具体的に自分のとるべき行動がなんとなくイメージできたら楽しみにになりました。 <理系女子>
- 今の 30~40 代あたりの方から、自分たちの時代は就職活動をする必要なってなかったという話を聞くたびに、就職氷河期の理不尽さを感じる。 <文系男子>
- 面接のネタは誰もやっていないようなことが良いという人、特別でなくても良いという人それぞれ同じ程いて、時折就職活動って何だろうと思うときがあります。学業本分の大学生活だって十分忙しいのに、そうそう特別なビジネスや経験などできません。それでも人事の方は、魅力を感じてくれるのでしょうか。感じてほしいのですが・・・ <文系女子>
- 就職活動の最大の敵は「何をすべきがよくわからない」であり、またなんとなくわかっていたとしても「なにか見落としている不安」があるなど、不安になってもきりが無い。就職活動はそういうものだとか割り切ることが大切かもしれない。 <理系男子>
- 就活のためにいくらがんばったかが評価されるのではなく、インターンからの内定などをもっと増やしてほしい。 <文系男子>
- 不安な気持ちでいっぱいです。食欲も減りました。早めに決めたい。 <理系男子>
- 同級生には就活を面倒、辛い事のように思っている友人が多いが、自分はいろいろな人や企業のことを知ることが出来る貴重な機会なので楽しみに思っている。ただ、もしも就職先が決まらないまま卒業することになったら、という不安はある。 <文系男子>
- まずは 1 社、早く内定がほしい。 <文系女子>